

## May 2016 subject reports

### Japanese B

#### Overall grade boundaries

##### Higher level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 14	15 - 29	30 - 47	48 - 61	62 - 75	76 - 89	90 - 100

##### Standard level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 11	12 - 23	24 - 38	39 - 55	56 - 69	70 - 86	87 - 100

#### Higher level internal assessment

##### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 26	27 - 30

#### 提出された成果物の特徴および適切さ

Individual Oral の手順は、ほとんどの学校で正しく行われていた。しかし、数校ではあるが、Language B Guide を読んでいないと思われる学校もあり、ここそこでその証が見えた。

時間配分：制限時間は Part 1 が 3～4 分で、Part 2 が 5～6 分である。全体的にはよくできていた。しかし、数校ではあるが、制限時間 10 分を越えるケース、Part 1 のプレゼンテーションが 4 分を越えるケースが見られた。このような場合には、教師が時間を告げ、ストップさせるべきである。そうしなければ、パート 2 の時間も奪うことになる。試験官は 10 分に達するまで審査し、それ以上の時間は審査しないように決められていることを再確認して頂きたい。

写真の適切さ：Language B Guide によく従い、ほとんどの写真と録音为正しく提出されていた。

キャプションの適切さ：ほとんどの場合、写真には適切なキャプションが付けられていた。不適切だったキャプションとは、(1) 短か過ぎて、受験者のプレゼンテーションに不利になるもの、(2) 極端に長くて、プレゼンテーションの範囲を複雑にするか、それを制限するものであった。最適なキャプションとは、意味深長な文であったり、または言葉巧みな疑問文である。また、日本語に誤字のあるキャプションの例や、キャプションが全くない例も見られた。

プレゼンテーション：写真についての大部分のプレゼンテーションは構成がしっかりとできていた。しかし、少数ではあるが、準備不足だと思われるプレゼンテーションもあった。ほとんどの受験者は、自分の考えを十分に説明できていた。教師は受験者に、写真の説明に費やす配分と日本文化と関連づけた自分の考えを述べる配分の釣り合いを熟考するように、十分にアドバイスをして頂きたい。

教師の質問のテクニック：ほとんどの教師が明確かつ簡潔で、受験者の助けとなる質問をし、効果的に受験者の反応を導き出していた。しかし、少数ではあるが、「ですます調」になっていなかった例や、一般的な質問をする例も見られた。これらは、避けるべきであった。

## 評価規準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Productive skills

ほとんどの受験者は、Part 1 のプレゼンテーションと Part 2 のディスカッションにおいて、ほぼ問題なく首尾一貫した会話を維持し、楽に日本語を話すことができていた。受験者の多くは、時折、間を置きながらも、流暢に日本語を話すことができていた。

一方、低いレベルの受験者は、質問を理解することができないこともあり、基本的な考えさえ表現することが困難なようだった。しかし、低いレベルのパフォーマンスでは、話すスピードが遅いなど、人一倍苦勞している面も見えたが、最後には綺麗にまとめることもできていた。

文または語彙の用法において若干の間違いは見られたが、ほとんどの場合、そのような間違いがコミュニケーションに大きな影響を及ぼすことはなかった。全体的に、語彙の幅が広く、日本文化の専門的な面の単語まで知ってる受験者が多かったのは、非常によかった。ほとんどの間違いは明らかに受験者の第 1 言語の影響によるものだった。

日本語の発音とイントネーションに関しては、全体的に正しくできていた。しかし、一つの単語の発音のミスで、意味をなさないケースも若干見られた。

### Criterion B: Interactive and receptive skills

ほとんどの受験者は、Part 1 のプレゼンテーションにおいて明白に表現する力を持っていた。しかし、もう少し準備時間を増やし、アプローチ方法を熟考して頂きたい。

プレゼンテーションを十分に準備し、冒頭に概要を説明できていた受験者のグループと、準備不足だったグループの間には、明らかな差が見られた。受験者はプレゼンテーションの内容をしっかりと構築し、十分に準備する必要がある。

十分な準備がプレゼンテーションの成功につながる。プレゼンテーションで使われた文章の長さや内容の深さはさまざまで、受験者ごとに異なるアプローチを取っていたようだった。教師は、受験者にプレゼンテーションの主旨を明らかにさせたいと、その主旨に基づいて考えを膨らませ、プレゼンテーションを効果的に組み立てて行くように導かなければいけない。

Part 2 の教師との対話において、ほとんどの受験者はうまく会話に参加することができ、敏速に、かつ適切に、質問に答えることができていた。受験者の多くに、正しく、完全な文章で答えようとする姿勢が見られた。最高のパフォーマンスには、受験者のある程度の精神的な機敏性が見られた。そのような受験者は常に自分の考えを持っており、答えの内容も複雑かつ深いものになっていた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 第2言語の学習者は母語の影響から起こるミスをよくします。そのような癖は本人が思う以上に深く根付いています。ですから、そのようなミスはその都度、その都度、直してあげてください。
- Part 1 は3～4分、Part 2 は5～6分の制限時間を守ってください。
- Language B Guide をよく読み、日本文化に合った写真を選んでください。
- Part 2 では、教師ははっきりした短い質問をし、受験者が簡単に、かつたくさん話せるように心掛けてください。
- 必ず、日本文化の要素を含めてください。
- この試験評価規準を、普段のクラスの中のオーラル・アクティビティーに取り入れて使って下さい。
- 一般的な質問は避けた方がよいでしょう。

## Standard level internal assessment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 26	27 - 30

## 提出された成果物の特徴および適切さ

Individual Oral の練習が行き届いていたのか、選んだ写真について積極的に説明をする受験者が多かった。

Part 1 では日本に関係した事について発表をしているものの、Part 2 では、自分の国に関することだけを話している受験者がわずかだが見られた。習得した言語（日本語）の文化と比べていくことが必要である。

Part 2 は Discussion として Language B Guide で定義されているが、単に教師からの質問と受験者のそれに対する答えにとどまるサンプルも多々見受けられた。

ごくわずかであるが、Part1 のプレゼンテーション中に、教師が相槌をうったり、質問を始めて介入したりするケースもあり、どこからが Part 2 なのかがわかりにくいものがあった。また、こちらもわずかではあるものの、Part1,2,3 と三部構成にしているサンプルも見受けられた。例えば、受験者が行きたい大学などに関する質問は以前の Part3 であり、現在の Part 1 および Part 2 構成には適切ではない。

試験実施時間は大半のサンプルがガイドラインに沿っていた。しかし中には Part 1 で受験者が話し続けるのに任せたために Part 2 の時間が短くなっているものや、逆に Part 2 が規定の時間を越えているものもあった。

教師の言葉遣いが大変くだけているサンプルが見受けられたが、これは適切ではない。

## 評価規準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Productive skills

ほとんどの受験者は、さまざまな語彙および文法を使いこなし、聞き取りやすい発音で自分の言いたいことを表現する力を持っていた。

Part 1 のプレゼンテーションの中にも高度な考えや意見が含まれているサンプルが見受けられた。

Part 1 での口頭発表はよかったものの、同じレベルの表現を Part 2 で保つことができない ケースが見受けられた。

### Criterion B: Interactive and receptive skills

ほとんどの受験者が教師の質問を正しく聞き取り、適切に受け答えることができていた。

高度な考えや意見を述べることができる受験者も少数ではあるが見受けられた。しかし、Part 2 ではほとんどの受験者が単なる事実の確認および答えにとどまっていた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

Part1 の写真の描写は、プレゼンテーションの導入部ですので、描写だけではなく、題材について意見が述べられるように指導してください。

Part 2 では、Part 1 で述べたことを基にして、より詳しく話せるような問いかけを教師がするとよいでしょう。生徒からより高度な意見や考えを引き出せるように、日頃からテーマ（題材）についての話し合いを深めておくとうよいと考えます。

提示された写真のテーマがどの Option に相当しているのかがわからないものが見られましたので、明確にするようにしてください。

生徒同士の日本語のやりとりは別として、教師と生徒の会話は IB 試験という場に即した言葉遣いのできるように、丁寧な話し方で進めてください。

IA の試験時間は、Language B Guide で定められた規則に基づくことが重要です。Part 1 と Part 2 の時間配分を確認してください。

学校のチャイムや呼び出しのアナウンスが入らないようにしてください。

受験者全員に同じ録音機を使っても、受験者の声によってははっきりと聞こえない場合がありますので、必ず再度聞いて確認するようにしてください。

## Higher level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 15	16 - 17	18 - 20	21 - 24

### 提出された成果物の特徴および適切さ

昨年度に比べ、WA で要求されている内容をしっかり把握し、それに沿って書こうとしている姿勢がみられ、今年度は全体的に基準が少しあがり、良かった。作品に関しては、昨年度と同じ作品がまだまだ多く、教師はもっと幅広く文学作品を探し、受験者に紹介してほしい。（5 作品とは「高瀬舟」、「走れメロス」、「蜘蛛の糸」、「鼻」、「坊ちゃん」）

### 評価規準に基づく受験者の到達度

#### Criterion A: Rationale and Task

Criterion A を詳しく、しっかり書こうとしている姿勢は見られたが、やはりこの Criterion で点を落としてしまう受験者が一番多かった。特に原作の紹介・あらすじの書き方が難しいようで、字数のほとんどをとってしまったものから、短すぎて、採点者側に十分な情報が伝わらなかったものまで見られた。「あらすじ」と全般的に書かないで、自分のタスクをまず考え、それを理解するために読者が必要とする内容を原作の紹介にまとめてほしい。例えば、

登場人物に重点を置くのか、それとも文学作品の結末に重点を置くかなどによって、紹介の文も変わってくるはずである。また、自分が書く作品の目的に関しては多くの受験者がある程度詳しく書いていたが、原作とは異なる結末を書く場合、「もっと明るい終わり方にしたい」など詳しい説明に欠けているものが多かった。

### Criterion B: Organization and Development

ほとんどの受験者が筋が通った、まとまりのある文章を書いていたが、日記や話の書き換えになっている場合、構成や発展を考えず、だらだらと書く傾向もあった。目立ったのは、段落が全くない文章が何回か見られたことだった。

### Criterion C: Language

ほとんどの受験者が適切かつ幅広い文型や語彙を使っていた。人物によって言葉遣いを変えたり、原作に合わせて昔風の言葉を使ったりと、一部の受験者からはおもしろい工夫も見られた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

一番重点を置くべきところは **Criterion A (Rationale)** だと思いますが、字数ぎりぎりまで詳しく書くこと、原作の内容を必要な部分に焦点をあててしっかり書くこと、目的を詳しく、はっきり説明することを徹底的に指導してください。本文のほうを先に書くのも一つの手だと思いますが、この場合、「作業が終わった」とほっとして、**Rationale** がおろそかにならないように、注意させてください。

ワークショップやOCCなどで意見を交換しあい、もっと幅広い文学作品を探してください。

「原作の終わりの書き換え」を選んだ場合、簡単だと思ってすらすら書き、内容が薄くなってしまった場合がいくつかありました。油断せずに、**Criterion** を読みながら、「この内容で、自分はこの **Criterion** に沿って本当に点がとれているのだろうか」としっかり考えながら書くように指導してください。

## Standard level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 20	21 - 24

## 提出された成果物の特徴および適切さ

昨年度に続き、読んでいて内容が充実している作品が目立ち、受験者が楽しみながら書いていた様子が想像できた。テーマも本当に幅広く、これは自分の興味で選んだのだろうということが生き生きと伝わってきた。テーマに関しては、日本や日本文化と関連させることが必要なので、特に国際的なテーマについて書いている場合は、日本のこともしっかり取り入れることが必要となる。基準は中の下ぐらいから非常によくできていたものまで幅が広がったが、全体的には昨年度に比べ基準が少し上がったように感じられ、良かった。

## 評価規準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Rationale and Task

趣旨の書き方がやはりこの WA の一番難しい点だと思われるが、今年度は（参考）資料の説明が詳しい WA の数が増えて良かった。この点に関してはまだまだ改良する余地はある。資料に関しては、どこからもってきたのかということと、簡単な（1 文の）内容の紹介が必要になる。また、WA の目的を明確に書くことも重要である。「Written assignment」をどう日本語に訳するののかも教師が指導しておくといよい。さもないと、「この作文では手紙を書きます。」というような文が出てきて、読み手にははっきり伝わらなかった。全体的なキーポイントをまとめると、字数制限ぎりぎりまで書いていないと内容が薄すぎ、高得点にはつながらないだろう。

### Criterion B: Organization and Development

ほとんどの受験者が正しく段落に分けて構成をしっかり考えて書いていたのは良かった。発展に関しては、もう少し掘り下げた展開で書くことができるはずだと思う場合も多かった。「効果的な構成や展開」を目指すには、順序を表す言葉やトピックセンテンスといった展開や構成に関する言語事項を学ぶことが必要となる。また、全体的な作品のまとまりを考えずに、使用した資料のあらすじを、つなぎ合わせただけの文章も数多く見られた。この課題では、資料を使いながら主題を築き上げるのではなく、まず「訴えたいことは、何か」という主題を決定し、その主題を支えるために必要な資料を探す、といったプロセスを踏むことが大事である。また、字数制限もあるので、あらかじめ「このポイント（段落）には\*\* 字ぐらいかけよう」と考え、計画性をもって書くことも重要になってくる。

### Criterion C: Language

全体的に複雑な文型や語彙をいろいろ使おうとしている姿勢がみられて良かった。漢字に関しては、入力ミスが目立つので注意が必要になる。また、インターネットに頼りすぎている場合、やたらと難しい単語や文型が出てきて、生徒自身が言おうとしている内容につながらず、読者の理解を妨げる場合もあったので、注意が必要である。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

この課題では趣旨の書きかたが一番難しいので、趣旨の書きかたを丁寧に指導してください。特に、目的の説明とそれがどう達成されたか、また、資料（sources）の詳しい説明がないと、Criterion A ではいい点が取れないことを強調してください。また、趣旨の長さがほぼ 400 字

ぎりぎりになっていなければ、内容が薄すぎ、高得点は取れないだろうと受験者に説明してもよいでしょう。

誤字、入力ミスが目立ったので（例：「自身」と「地震」）、コンピューターで日本語を打つときの注意事項を徹底的に指導してください。

イラストや写真を入れたり、デザインを考えたりと、非常に楽しいものがありました。これは読み手にとってはうれしいものの、得点にはつながらないので、このような作業には2時間以上はかけないように指導してください。また、写真やイラストをインターネットからとってきた場合の著作権問題についても考えさせてください。

参考資料を段落の一つずつ使うのではなく、全体的に考えて書くほうが質があがるだろうと指導してください。

参考資料やインターネットなどからの情報を使う場合は、自分で十分に読みこなし、自分の言葉や文型でその意味を伝えるように指導してください。コピー&ペーストは **plagiarism** になるだけではなく、自分の言葉の部分と引用部分の間で質の差が激しく、読者にとって非常に読みづらいものとなってしまう、点が落ちてしまうので注意が必要です。

自分が読んで意味の分かる漢字や、語彙を効果的に使いながら、筋道だった文章を書く練習を日頃からすることが上達につながるでしょう。

## Higher level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 9	10 - 19	20 - 30	31 - 38	39 - 47	48 - 55	56 - 60

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

全体を通してよくできていたが、他の問題に比べると、「単語が文中でどのような意味で使われているか」という問題を間違えた受験者が多かった。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

全体を通してよくできていたが、特に問題 E の「ロボットの授業、おもしろい！」で、カーブをさせる方法を2つ書く問題やロボットが途中で止まってしまう理由など、答えがそのまま書かれている問題はとともよくできていた。



## 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

**問題 A** は「ファストフィッシュ」という商品や、食に関する記事だった。1 番から 4 番までは文章のまとめの穴埋め問題で、比較的よくできていた。5 番から 11 番まででは、6 番を「子育てしながら働いているお母さん」を「お母さん」としか書かず、間違えた受験者が多かった。しかし、その他は特に大きな問題はなかった。

**問題 B** は雑誌の小型版が増えるという記事だった。12 番から 14 番までの質問は比較的よくできていた。特に、14 番は「小型版」というそれほど簡単ではない単語を使って答えた受験者が目立った。15 番から 18 番は段落のまとめの見出しを選ぶ問題だが、他の問題と比べると様々な間違えた答えが選ばれていた。19 番は正しいものを 4 つ選ぶのだが、比較的よくできていた。

**問題 C** はゴミを減らす活動についての記事だった。20 番から 23 番はよくできていたが、23 番に関しては、1 か月に何回するのが質問であるにも関わらず、毎月第 3 週とだけ答えていて点をもらえない受験者が多くいた。

24 番から 27 番は同じ意味の言葉を文中から探すもので、とてもよくできていたが、その中では、27 番の答えである「団地」以外を選んだ受験者が時折いた。28 番から 31 番は正しい答えを選ぶ読解問題である。31 番のこの記事の目的を乙武さんの話だと間違えて理解した受験者が少し目立った。

**問題 D** は文学作品からの抜粋だった。32 番から 36 番は「正しい」または「正しくない」を選んだ上で、正しい理由を書いて点になる。しかし、どちらかが欠けているため点をもらえないケースが多かった。37 番から 40 番までは言葉が文中でどのように使われているかを選ぶものだが、38 番の「よけいに」の意味を間違えた受験者が多かった。41 番から 44 番の 4 択問題は比較的よくできていた。

**問題 E** はロボットの授業に関する記事だった。45 番から 49 番の文の前半と後半をつなげる問題は比較的よく、50 番から 52 番の日本語で答える問題は大変よくできていた。53 番から 56 番は 4 択問題だが、これも間違いは少なかった。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 各段落の見出しをまとめたものがどの段落のものなのかを選ばせる練習をしてください。
2. 「正しい」、「正しくない」を選び、その理由を挙げる問題では、どちらかを答えていても点をもらえない、ということを受験者に理解させるようにしてください。
3. 答えがそのまま書かれている問題は間違いが少なかったですが、読み取る力が必要な問題を間違える傾向があります。そのような問題に答える練習が必要です。
4. 問題をよく読み、考え、何を聞かれているかを答える練習をしてください。答えがそのまま書かれていない場合に読み込む力が必要です。

## Standard level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 4	5 - 9	10 - 13	14 - 22	23 - 31	32 - 40	41 - 45

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

受験者によっては、読むスピードが遅く、全部の問題をこなすことができなかった受験者もいた。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

身近なテーマは比較的よくできているようで、問題 D の野菜ソムリエの問題は比較的簡単だったようだ。

### 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 A は宮城県で作られている「おのくん」に関する問題だった。最初の 4 問は質問に答える内容だったが、4 番の値段は非常に簡単で、ほとんどの受験者が正解だった。2 番は、「できている」という言葉に引っかかった受験者もいて、「ダンスができます」という誤答が多く見られた。また、問題の「から」という言葉を拾って、「2011 年から」と答えた生徒も多かった。4 番から 6 番の穴埋め問題も比較的よくできていたが、その中でも 4 番が一番簡単だった。7 番では「作る」と「使う」の漢字がしっかり区別できなかった受験者もいた。

問題 B はイギリス王室と文通している生徒の内容だったが、最初の 4 問は「正しい、正しくない」を判断し、理由を書くものだった。毎年問題になるのだが、両方できて 1 点になるので、片方しか書けていなく点を落としてしまう受験者が目立った。特に今年は「正しい」が 3 つあったせいか、どうしても「正しい」を 2 つ、「正しくない」を 2 つにしたい受験者が多かったようで、理由は正しく書けているものの、「正しい・正しくない」が反対になっていたケースが目立った。17 番から 19 番の穴埋め問題は特に難しかったようだ。

問題 C の高齢化社会の問題は、特に文の前半と後半をつなげる 24 番から 27 番が難しかったようだ。意味も文法的なつながりも確認して正解を選ばなければいけないことをしっかり把握していなかった受験者もいた。

上にも書いたが、問題 D の野菜ソムリエについての問題は比較的簡単だったようで、32 番から 35 番の質問には多くの受験者がしっかり解答できていた。中でも 35 番が一番簡単だった。また、36 番から 39 番の定義を語彙から探す問題は、多くの受験者が難しいと感じるものだが、今年度は比較的よくできていた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 「正しい・正しくない」、そして理由を書く問題は両方書かないと点にはならないことを受験者にしっかり伝えてください。
2. 毎年問題 C が一番難しく、問題 D はそれより簡単であるというのは IB の設定です。「この並べ方はおかしい」というコメントが教師からのフィードバックにありましたが、これは全言語共通の IB の設定ですので、今後変わりません。読むスピードが遅く、問題の全部をこなさきれないだろうと思われる受験者にはこの点を伝えておくといいかと思えます。
3. 上の点にも関係しますが、読む量を時間内でこなせそうにない受験者に関しては、あらかじめ時間配分などの試験対策を話し合っておくとよいでしょう。特に全部の問題に答えようとして慌てるより、点をとれそうな問題 A、問題 B に時間をたくさんかけたほうがいいのかなどをあらかじめ教師と一緒に考えておくといいかと思えます。
4. 文章の中から接続詞が抜けている種類の問題は、もっと練習させてもよいでしょう。
5. 文の前半と後半を正しくつなげる問題の種類は、意味と文型の両方を考えて正解を選ぶように指導してください。

## Higher level paper two

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 7	8 - 15	16 - 23	24 - 29	30 - 36	37 - 42	43 - 45

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

第一部に関しては特に問題なかったが、第二部に関しては字数以内にしっかりと理由も含め自分の意見をはっきり述べるのが難しかったようだ。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

第一部のテーマに関しては、受験者はどれも問題なく書けるようだった。語彙や文型の豊かさや使い方も良かった。

## 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 1 のレストランの紹介は、日本人へのアピールという内容をしっかりつかみ、日本人にアピールするような言葉づかい、メニューの品、レストランの雰囲気など、様々な工夫がみられて良かった。

問題 2 のコンサートの報告の記事は、問題をしっかり読んでいない受験者が目立った。そこで、地元の人感想が落ちていたり、将来開かれるコンサートへの招待になっていたりして、惜しかった。

問題 3 は漢方薬の学習を希望する生徒に関する内容だった。このタスクは、問題の内容が少し詳しくあったせいか、自分のアイデアを考えてつけたす工夫があまり見られず、**Criterion B** で十分に力を発揮しきれない答案が目立ったが、親との話し合いの大切さや親に関する自問の気持ちなどの面はしっかり書けていた。

問題 4 も内容を十分に読み取れておらず、レジャーパークの楽しさに重点を置いている文章が多かった。過疎化をふせぐことや若者をひきつけるといった面にもう一工夫あれば良かった。

問題 5 の風力発電所の建築に関しては、知識も語彙も豊富だったようで、この問題を選んだ受験者の数は多くなかったが、これを選んだ受験者は十分内容が充実した文章を書いていた。

上にも書いたが、第二部の問題は難しかったようで、字数内でしっかりと自分の意見を述べ、説明できていた受験者は少なかった。特に「大学に行くにも、就職するにも、どちらにも良さがある」と書こうとしているのだろうが、意見がはっきり伝わらなかったり、字数制限内にまとめられなかったりしたケースが目立った。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

問題をしっかり読みこなし、内容の一部を書き落とさないように、十分注意させてください。また、書いている途中で脱線してしまい、結果的に内容の一部が落ちてしまわないようにするのも大事です。

書き出す前に構成を考え、段落を使い、しっかりしたまとまりがある文章を書くことの重要性を強調してください。

第二部の書き方に関しては、まず自分の意見は何なのかをしっかりと考え、その観点を裏付けるようなポイントや例を含めて構成を練っていくように指導してください。

## Standard level paper two

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
---------------	---	---	---	---	---	---	---

**Mark range:**            0 - 3            4 - 6            7 - 10            11 - 14            15 - 17            18 - 21            22 - 25

## 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

受験者の大多数が難しいと感じた部分はなかったようだ。

## 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

複雑な文型・語彙・単語を使って書こうと取り組んでいる様子が伝わり、良かった。特にある程度の漢字は習得できていたようで良かった。

## 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1 番は転入生がクラスに入ってくるという内容だったが、転入生がどのような点で困っているかもしれないのか想像することと、その生徒のためにどのような事ができるかの両方をしっかり盛り込んだ文章は少なかった。場面を日本に設定し、上履きをはかなければいけないことを知らなかった、給食のことを知らなかったなど、なかなかおもしろいものの中にはあってよかった。

2 番の「歴史上のできごと 100 周年の記念イベント」の紹介文を選んだ受験者は、ほとんどいなかったが、挑戦した受験者はどのような行事なのかを適切に述べていた。ただ、「歴史上のできごと」と結びつけて行事を案内することが難しかったようだ。また、ウェブサイトでの行事案内なので、一目で日時や場所などの情報が読み取れるようなテキストタイプの形式的な工夫もあればよかった。

3 番の「たばこを吸うな」のメッセージを伝える学校新聞の記事が圧倒的に人気だった。喫煙がどのような影響をもたらすのか、具体的に述べられており、健康に対する知識の深さと関心の高さが窺われた。一方、「友達の経験を生かす」という点が十分に配慮されていない作品があり、残念だった。また、テキストタイプが新聞記事であるのにもかかわらず、直接的に聴き手に話しかけるどちらかというスピーチの文体で書かれた作品も多くあった。

4 番の新しいスポーツクラブを始める問題は、クラブの紹介や友達への呼びかけは丁寧に書けていた。だが、スポーツのおもしろさの説明が欠けていたり、薄かったりした場合も多かった。

5 番の体が不自由な人が使えるテクノロジーの問題を選んだ受験者の数は少なかったが、この問題を選んだ受験者は非常によく書けていて、多分専門的な知識をもっていたのでこの問題を選んだのだろうと感じた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

問題の内容をしっかりと読み取って、必ずそれに沿った内容を十分取り入れて文章を書くように指導してください。

いろいろな語彙や漢字、複雑な文型を取り入れて書こうとしている姿勢は非常に良かったので、今まで通り指導を続けてください。

原稿用紙の書き方が全くわかっていないケースがいくつかありました。原稿用紙の使い方は直接点数には影響しませんが、それでもなるべく正しく使うように指導してください。ただし、テキストタイプがパンフレットや日記だったりした場合、最初の行に題名、次の行に名前という書き方はしないで、〇〇月 〇〇日天気雨というように直接本題に入るように指導してください。このような場合は原稿用紙に書かないで、IB の普通の行の解答用紙に書くのも一つの手でしょう。

日記の最後に“おやすみ”や“ありがとう”などの不適切な書き方をするものが多数あったので、指導を徹底してほしいと思います。

教師からの批判に日本についての内容が少なかったというものがありましたが、問題に日本と明確に書いていなくても、生徒の解答に日本の要素を取り入れることは十分にできます。例えば、上にも書きましたが、1番の転入生を日本人に設定したり、4番のスポーツを剣道に設定したりすれば学習した日本文化についての知識を十分に発揮することができます。

語彙や文法を教えるだけでなく、また、文化と言っても茶道や華道などの典型的な伝統文化の意味の文化だけではなく、例えば人と人との関係の中で生じる文化の違いからのどのような意見の相違が生まれうるのか、物の見方はどのように異なりうるのか、そしてそのような違いをどう乗り越えられるかというような事も学べる活動やテーマを、日本語 B の授業の中にどう組み込まれるか考慮してほしいと思います。